

鳥取県町村議長会視察報告

大山町議会議長 杉谷 洋



1	日 時	令和元年10月28日（月）～10月30日（水）	
2	視察地	山梨県昭和町 埼玉県三芳町	
3	視察内容	（ 内 容 ）	（ 場 所 ）
		<p>1 昭和町議会 ・議会改革、議会活性化への取り組みについて ・議会基本条例・議会モニター ・井戸端会議・議会災害対策について。 ・議会だよりについて。</p> <p>2 三芳町議会 ・議会改革、議会活性化への取り組みについて・議会報告会・政務活動費・議会広報について</p>	<p>昭和町役場</p> <p>三芳町役場</p>
4	研修結果 又は概要 （意見・感想）	<p>【1】昭和町議会</p> <p>1. 概要 昭和町は、山梨県甲府盆地の中央に位置し、山がなく面積9.08キロ平方メートルで山梨県の中心に位置し県内27市町村の中で、最も小さな町。昭和56年頃、約161ヘクタールの工業団地が整備され大手企業が進出し、併せて県内最大規模のショッピングセンターも開店し利便性が増した。</p> <p>これまで一度も人口減少をしたことがなく人口は20,412人で高齢化率は18.63%（県内で最も低い）。財政力指数1.25で、昭和59年から地方交付税の不交付団体である。</p> <p>町議会議員定数は14名。町内には12の行政区がある。</p> <p>2. 議会基本条例 議会は、効率的でわかりやすい運営を目指し、町民の意思を反映した「開かれた議会を目指すとともに、その果たすべき責務も明らかにし、監視機能、調査機能、政策形成機能などを強化している。そのために、議員が、従来の活動にとどまることなく、自己の資質向上を図りながら議会改革を推し進め、より「住みやすい町」を目指し、町民の負託に全力でこたえることを決意し条例制定した。</p> <p>昭和町議会では、平成20年5月に山梨学院大学ローカル・ガバナンス研究センターと、地方分権時代の議会改革等で連携・協力する協定を締結した。費用は、当初は</p>	

96万円が、平成29年度から50万円となっている。

3. 井戸端会議（地域住民との対話集会）

平成21年5月からの井戸端会議は、身近に感じる開かれた議会として、各地区に出向き、議会報告と意見交換を行い、多様な意見は、その後の議員間討論等に生かされている。

4. 議会モニター

議会モニターは、議会と町民、特に若い世代の架け橋の存在であり、町民との距離を縮め、開かれた議会につながる意見や要望、提案などを聴取し、議会運営に反映することで、議会の円滑かつ民主的な運営を推進している。

平成24年度に町在住者の若者を任期2年で町内3地区から男女6名を選出し、町定例会・委員会への傍聴や議会全体に対する意見提出等を願っている。

地域の代表としての身近で率直な若さあふれる意見等に対し、議会も真剣に受け止め、解決へ導く努力をしている。

最近は特に高校生の意見収集を行い議会の円滑かつ民主的な運営を推進している。

5. 議会災害対策

平成23年3月11日の東日本大震災を機に、行政側と連携し、災害対策活動を支援すると共に、議会としても町民の救援に努める指針を定めた。

また、山梨学院大学とのワークショップからの提案などで「昭和町災害基本条例」及び「災害時議員行動マニュアル」を制定した。

6. 議会だより

議会広報誌「議会だより しょうわ」は「わかりやすく、親しみやすく」をモットーに紙面づくりに力を入れている。町民一人でも多く愛読していただけるような広報を目指し、更なる広報改革を進めている。編集委員は委員長を含めて6名議員で内訳は、1期生議員4名と2期生議員2名が携わっている。平成21年度から平成30年度まで、平成28年度を除き、毎年「県最優秀賞」を受賞している。平成23年度全国広報コンクールにおいて最優

秀賞に選ばれ視察の受入も多い。

7. 昭和町議会の取り組み

議会改革は「謙虚に、果敢に」を合言葉に「学ぶ議会」「行動する議会」「改革・変革する議会」を掲げて、住民と直接関わり住民に開かれた議会を目指している。議会広報コンクールにて多くの受賞を重ねられ、読みやすい議会報であり現状に満足せず、議会経験の浅い委員で編集にも努められ、わかり易く親しみのある紙面が構成されている。

【2】 三芳町議会

1. 概要

三芳町は東京に一番近い町でありながら、いまなお雑木林などが多く残る緑豊かな町であり、歴史的文化財も多く残る町、人口 38,287 人、世帯数 16,232 世帯（平成 30 年 4 月 1 日現在）面積 15.33 km² 議員数 15 人である。

2. 議会だよりの編集

広報広聴常任委員会委員 8 名（会派より選出）、事務局職員 3 名、非常勤職員 1 名。昭和 51 年 9 月創刊。年 4 回発行（5・8・11・2 月の 1 日に発行）、発行部数 16,100 部。配布はシルバー人材センターに年間 908,000 円で委託。全体の予算は 3,005,000 円。議会終了後に一般質問を締め切り、その 2～3 日後に委員会を開催。委員会の開催は基本的に 3 回程度開かれている。最終校正は、正副委員長が行い。編集は、基本的に議会広報広聴委員会の議員が行っているが細かいレイアウトなどは印刷業者及び事務局が携わっている。一般質問については、議員が作成している。若者や女性層に読んでもらう工夫は。アンケート調査やインタビューなどを行っている。また、モニター制度を導入し、6 月には出張出前委員会を開催して広く町民から意見を聞いている。

3. ふれあい座談会（議会報告会）

テーマを設けず町政に対する政策提言を参加者に積極的に発言し易く意見が出やすいように会場の配置を考え数班に分けた会場作りに心掛けている。

この座談会の周知方法は、広報みよしでの広報、ポス

ター掲示、各種事業が行われる場所でのチラシ配布や区長へ参加案内の回覧の依頼や公共施設にもチラシをおいで案内している。

4. 井戸端会議

井戸端会議は住民との対話集会を目的として、ふれあい座談会とは別に行っている。議会側からの声掛けが重要と考えている。

ふれあい座談会も同様である。若い世代の方たちの参加してもらうためにフェイスブックの活用である程度は効果が出る。

5. 政務活動費

政務活動費として使用できる経費の範囲を、政務調査やセミナー参加、資料作成のための機材や書籍など政務活動に関わる使途に限り設定している。後援会開催やチラシの作成などの政治活動の為の経費や飲食費には使用は禁止、月 5000 円の 12 か月分、年額 6 万円が年度当初に一括交付している。

また、交付された政務活動費に残余金が生じたときは、返還する。収支報告書等の提出 その年度の政務活動費に係る収支報告書及び政務活動報告書を領収書等の証拠書類を添えて提出し提出された収支報告書は議会運営委員会において委員全員で厳正に収支内容についてチェックを行っている。

また、領収書や添付書類を含めて、すべてを三芳町議会のウェブサイトで公開している。

6. 三芳町議会の取り組み

ふれあい座談会（議会報告会）をはじめ、町のさまざまな課題に取り組むために政策検討会議や政策サポーター会議を開催し、問題解決に当たっているところは素晴らしいと感じた。開かれた議会のために議会改革が進められている、「できることから実行しよう！」を合言葉に、平日、議会傍聴に来られない住民に対して夜間と休日議会を開催しているが、現在夜間議会は開催されていない。

今回の両町の行政視察で学んだこと

町民に信頼されるためには議会・議員が変わる努力を重ね。議員の方から積極的に住民の中に深く入り込み、生の声に耳を傾ける機会を多く設け。住民に信頼される議会・議員を目指して、「学ぶ議会」を合い言葉に議会改革に取り組んでいくことで一定の成果と前進が図られている。わが町でも、まちづくり組織や各種団体で意欲のある人や地域住民に結集を呼びかけて協働で政策作りを行い。小さな活動でも根気よく課題解決に立ち向かって行けば、いつまでも住み続けたい魅力ある町が出来上がる。

それには行政・議会・地域が連携を深めて地域をつかっていくことが必要と今回の研修で強く学ぶことができた。本町も両町と同じような議会活動は行っているが町民に理解してもらっているだろうか？

また、議会モニターは議会と町民、特に若い世代から奇抜な意見やアイデアを出してもらい、意見を広く聴取し、町民から沢山の要望を出してもらい議会運営に反映することで、議会の円滑かつ民主的な運営を推進していき町民との距離を縮め開かれた議会を目指すとともに自己の資質向上を図りながら議会改革を推し進め、「開かれた議会を目指し」、活動することで住みやすい町が出来上がり町民の負託に答えていくことになると強く思った。

今回の視察で、議会広報コンクールに於いて数多くの受賞を重ねられている昭和町広報委員長から鳥取県に大山町の広報誌ありの話を伺い印象の深い視察だった。